

東京都大田区・大森ふるさとの浜辺に親しむ活動あれこれ
Various attempts to make people commune with nature on the
beach in Omori, Tokyo

小山 文大 (大森 海苔のふるさと館)

Fumihiro Koyama (Omori Nori Museum)

1. 大森ふるさとの浜辺公園について

大森ふるさとの浜辺公園は人工海浜がある都内では珍しい公園である。埋立地に囲まれ、東京湾とは京浜運河で結ばれている。大森ふるさとの浜辺は、全長 400m の砂浜とその両端にある岩場、沖合の人工干潟との 3 つからなっている。2007 年のオープン。公園が作られるにあたっては住民参加型のワークショップが何年も行なわれ、住民の意向が反映されている。その一環として公園内に「大森 海苔のふるさと館」も設置された。

2. 大森 海苔のふるさと館について

江戸時代から 1963 年春の終焉まで当該地域は長らく海苔養殖で栄えた。当館は住民からの要望に大田区が応える形で設立された。「歴史」と「環境」の 2 つを柱とし、様々な体験機会を提供している。オープンは 2008 年で、運営は NPO 法人海苔のふるさと会が区から業務委託を受けて行なっている。

3. 大森ふるさとの浜辺を活用した活動の紹介

・生き物観察のイベント

海苔のふるさと館の来館者向けイベントとして以下を実施している。「浜辺の生き物探検隊」「フジツボを観察しよう」(夏) 対象は小学 3 年生以上。

「浜辺の小さな生き物たち」(春と秋) 対象はなく、幼児から参加可能。

・海苔の生育活動

海苔養殖の技術継承と景観の再現を目的に年間を通じて、職員とボランティアとで活動している。冬の間中、浜で見られる竹ヒビと海苔網は、往時を思い出させる風物詩となっている。数年に 1 回程度、実際に海苔も収穫できる。毎年、近隣小学校が作業の見学と体験をしている。

・海苔のふるさと館での紹介

館内にある企画展コーナーでは、定期的に浜辺の自然を取り上げている。現在は、「大森ふるさとの浜辺の生き物たち 命を育む東京湾の浅瀬」を開催中。11 月 17 日まで。そのほか、入口の情報コーナーでの発信や浜辺で採った魚の水槽展示などを行ない、浜辺に親しむきっかけ作りに取り組んでいる。

4. 東京湾ぐるっとスタンプラリー

東京湾には多様な環境があることを知ってもらおうと、沿岸にある教育施設が協働で実施している。今年 3 回目で、今年は 14 施設が参加。11 月 30 日まで。

キーワード：人工海浜、博物館、自然体験、海洋教育、SDGs